

今年度の数学訪問では、「令和8年度数学科の授業づくりのポイント」を基に授業を参観し、意見交換をしています。1学期の訪問より、好事例として米子市立尚徳中学校の取組を御紹介します。

令和8年度数学科の授業づくりのポイント

- ① 学習指導要領を基に、本時のねらい(授業で身に付けさせたい資質・能力)を明確にする。
- ② 生徒一人一人の学習状況を見取り、個に応じた指導や支援をする。
- ③ 本時のねらいに即した適用題を実施する。
- ④ 適用題の正答率80%以上を目指し、適用題が解けた生徒には、次の課題を準備する。
- ⑤ 全ての生徒が、教師が設定する明確なねらいや意図に応じて説明(表現)する機会を確保する。

ナイスポイント



※上記①～⑤に該当する部分について記載

【導入】

- ①本時のねらいを明確にし、生徒が見通しを持ち、学習に取り組めるようにしていた。

【展開】

- ②個人で取り組む時間が十分確保されていた。
- ②生徒の取り組む状況を教師が見取り、個に応じた支援や声かけをしていた。
- ⑤個人で考えた内容をもとに、全員が自分の言葉で説明していた。一人一人が自分の考えをもっている、分からないことを教え合ったり、新たな疑問を一緒に考えたりと、質の高いアウトプットになっていた。
- ③適用題では、解き方を説明することに重点をおいており、本時のねらいに沿った設定をしていた。
- ⑤苦手な生徒も相手に聞く前に、できたところまでを説明する機会を設けていた。
- ④普段の授業から同じような流れを定着させておくことで、適用題が終わった後も、生徒が自分で次の課題に向かえるようにしていた。

【終末】

- ②振り返りシートから生徒の理解度を見取り、次の指導に生かしていた。

<授業の流れ:1年生 正の数・負の数>

【本時のねらい】 正の数、負の数の除法について、その解き方を説明できるようになる。

【導入】

- 既習問題(正の数、負の数についての乗法)を解き、生徒同士で解き方を説明し合う。
- 本時のめあてを生徒と共有する。
『正の数、負の数の除法について、その解き方を説明することができるようになる。』

【展開】 ※「★」…教師が実際に行った支援等

- 個人で、教科書を見ながら問題に取り組む。
- 教師は机間指導を行い、生徒のつまずきを見取り、支援をする。
★乗法の考え方を参考にできるよう、教科書の該当ページに立ち返り、一緒に確認する。
★答えが分数になるときの分母・分子や約分の方法を、プリントに書き込みながら一緒に確認する。
- ペアで考え方を説明し合う。
- 全体場で共有し、生徒の言葉を使ってまとめていく。
★教師は、生徒が解き方の説明をするときに使った言葉(同符号・異符号・絶対値 等)をキーワードとしながらまとめていく。
- 適用題を個人で解き、その後、班の中で説明し合う。順番は偶然性のある方法で決め、全員が説明するようにする。
★教師は、「よく分からない場合は相手に尋ねること」や「相手に分かるように説明すること」を促す。
★教師は、生徒の疑問やつぶやきを把握し、解決しなかった部分については、適用題の答え合わせの時に取りあげる。
- 適用題が終わった生徒は、ワークの問題を解いたり、追加のプリントを解いたりする。

【終末】

- 今日の学習について振り返りをする。

★過去のお役立ち情報★



令和8年2月号
「数学訪問から考える
授業づくり」



生徒が「わかった」「できた」と実感したり、数学的な表現を用いて、自分の考えが表現できるようになったりすることを目指す上で、授業づくりの**5つのポイント**を意識し、日々の授業づくりに取り組みましょう。

